



はじめに

企業は生まれたときから、未来がある。いや未来に生きるために、期待と希望なかで計画され生まれてきた。未来を志向し、風雪を乗り越え、花を咲かせ、実をむすぶ。そして、市場という大地にその種を落とし、新たな洋々たる未来にバトンタッチし成長を続ける。やがて、蒼樹の森となる。

老舗企業は、まさにそのような大樹のようだ。空には豊かな枝を張り、大地には地中深く力強い根を伸ばし、たおやかで、おだやかで、ゆるぎない佳木に似ている。

私たちは、生きる知恵についての多くをこの老舗企業という大樹から学んできた。本研究叢書は、老舗企業の研究を通して得られた知見を論文にし、編集したものである。

本研究叢書の構成は、第一部では、現代に生きている老舗企業を綿密な調査結果に基づいて描き出している。第二部では、歴史の中に生きてきた老舗企業を姿と知恵について述べている。第三部は、それぞれの分野での活躍する老舗企業の知恵の活用について研究された成果である。第四部では、老舗企業の生命力についての知見と考察である。

本研究が、輝かしい未来を志向する企業の方々の、持続する成長の道しるべとしてお役に立てるものと信じている。

この研究叢書は、実践経営学会の顧客価値研究会と関西国際大学地域研究所の研究メンバーが共同して調査・研究してきた成果物である。また、本書の編集にあたって、関西国際大学の森山幹央君、上川真由さん、中川喜隆君が協力をしてくれたことを感謝する。

関西国際大学 地域研究所
所長 竹田 茂生